

## 院内感染対策委員会

### 《概要》

近年、社会問題となっている院内感染症の発生及び伝播を防ぐ目的で組織され、院内感染対策委員会、院内感染対策チーム(ICT)、院内感染対策ワーキンググループから成っている。主な実働部隊であるワーキンググループのメンバーは、医師(リンクドクター)・看護師(リンクナース)・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師で、多職種により構成され、感染防止に関するさまざまな活動を行なっている。

活動方針は毎月第1水曜日に行う院内感染対策チームで決定し、第3水曜日に開催する院内感染対策ワーキンググループ会議で議論した上で、最終的に第4月曜日の院内感染対策委員会で報告し承認を得ている。実際の感染対策活動は、ワーキンググループの中でグループに分け、細かい対策を行っている。

今年度からは主に抗菌薬の適正使用に対する介入を目的とし、ICT ラウンドを実施した。

教育活動としては年に5つのテーマでの院内感染対策研修会を実施、中途採用者への研修も実施した。

また、昨年に引き続きミニ勉強会の実施と手洗い教育も実施した。

日本環境感染症学会総会には平成21年度は当院から2題の演題を発表した。

サーベイランスに関しては、耐性菌サーベイランス、中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス(BSI)を行いその結果をフィードバックしている。

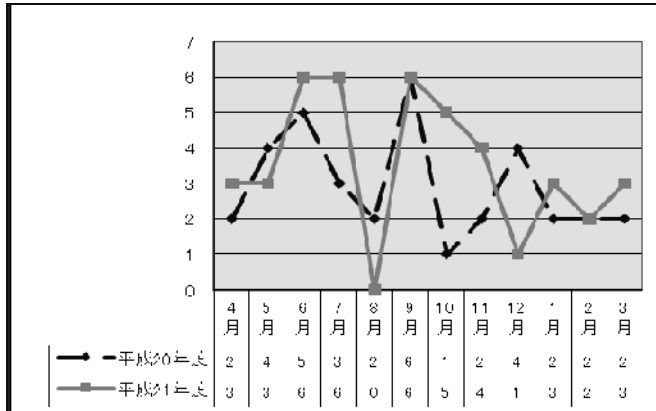
### 《実績》

平成 21 年度 院内感染対策ワーキンググループの活動と担当者

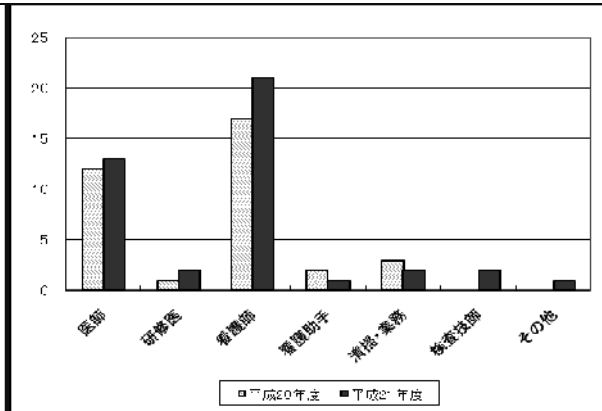
グループ	細目	担当者
サーベイランス	SSIサーベイランス BSIサーベイランス 針刺し、粘膜汚染サーベイランス	山村 Dr、畑中 Dr、藤田、北野、中、川西
予防基準	マニュアル作成（消毒方法カラーダイジェスト版、百日咳、針刺し事故対応、ペン型インスリン使用に関して、物品取扱基準）	藤森 Dr、田守、木浪、川西
医療材料	新規医療材料の検討（ステアジェル、スーパーキャス）	川西
教育	職員に対する教育活動（院内感染対策研修会、ミニ勉強会、手洗い実践・チェック）	西川 Dr、西本 Dr、中平、玉井、布野、原村、中村、川西
清掃関係	針落下状況調査、清掃ミーティング	川西
耐性菌、抗生剤	抗生剤の適正使用ガイドライン作成 医師への指導 MRSA、耐性菌サーベイランス	畑中 Dr、中田、須合、川西
広報関係	Infection Control News の発行	秋田 Dr、中平、藤原、川西

◆ サーベイランス

【針刺し・粘膜汚染 月別件数】



【針刺し・粘膜汚染 職種別件数】



【針刺し・粘膜汚染サーベイランス 評価】

平成21年度は平成20年度に比べ件数的には7件の増加が見られた。職種別では看護師が多いが、割合計算すると6.2% (件数/看護師総数:H21.3)であった。医師は13件であり、割合計算すると13.1%であった。器材別では縫合針による針刺し(7件)がもっとも多く報告され次に旧タイプの留置針による針刺し(6件)であった。手袋装着必要場面での装着率は80%であった。平成21年度は防止対策として留置針の変更を行ったが、導入後の効果を見るにはもう少し期間が必要であり、平成22年度の経過を見ていくこととする。ペン型インスリンリムーバーの使用に関しては、徹底できていない事例が見られた為、リムーバーの使用を徹底するよう啓発していくこととする。手袋の装着に関しても装着率増加のための啓発をしていくこととする。

【BSI サーベイランス】

期間	延べ入院患者数	延べ挿入日数	使用比	感染率
2009年9月～2010年3月	48,552	14,450	0.04	10.0

◆ 教育

院外講師を招いての感染講演会

講師： 加藤 元一先生 市立岸和田市民病院 呼吸器科 部長

日時： 11/18(水) ビデオ研修:12/15(火)、12/16(水)、12/25(金)

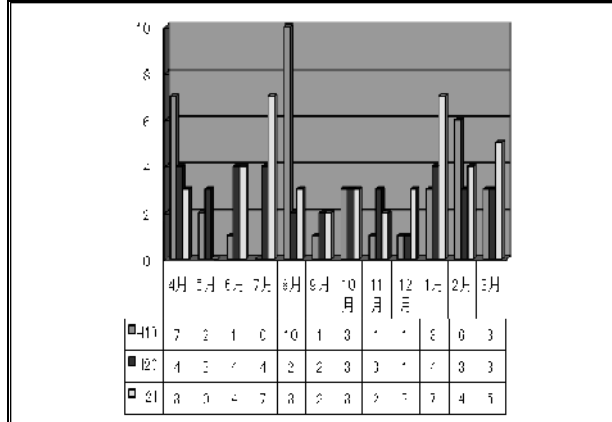
内容： 「今日から実践！抗菌薬の使い方～抗菌薬ってみんな同じ？～」

院内感染対策研修会

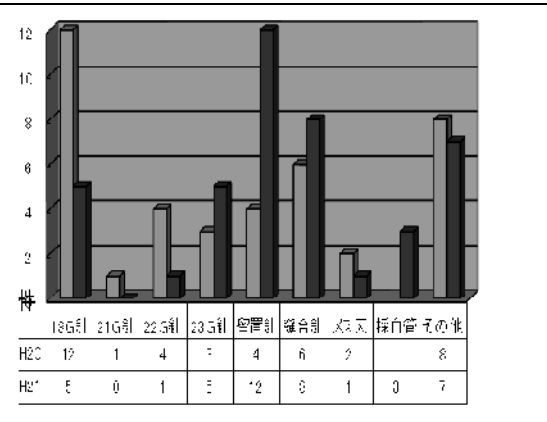
★ 新型インフルエンザ				出席率：57%
5/20(水)	5/29(金)	6/1(月)	6/17(水)	
★ 針刺し・標準予防策				出席率：59%
7/15(水)	7/24(金)	7/30(木)	8/4(火)	
◆ 耐性菌・抗生剤				出席率：50%
9/16(水)	9/29(火)	10/5(月)	10/23(金)	
◆ 感染予防対策 間違い探し				出席率：50%
1/20(水)	1/22(金)	2/3(水)	2/5(金)	

◆ 清掃関係

【針落下報告 月別件数】



【針落下 種類別件数】



【評価】

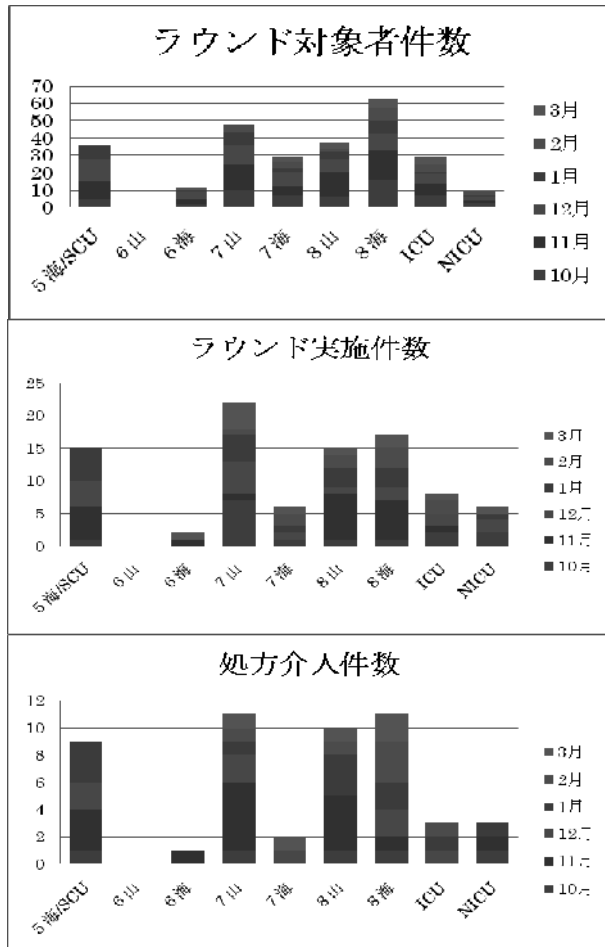
今年度は 42 件と昨年度と比較して増加が見られた。月別では 7 月と 1 月に多く見られ、休み等での人員不足による繁忙があるのではないかとと思われる。18G 針の報告件数が減少したのはプラスチック針の使用が進められてきたためと考える。留置針の報告が増加しているのは針捨て BOX の使用が徹底できていないと思われる為、使用后すぐに廃棄できるシステムを導入する必要があると考える。

◆ 広報

インфекションコントロールニュースの発行

- ・ 21～29 号まで発行する。

◆ ICT ラウンド



ICT ラウンドメンバー

医師、薬剤師、検査技師、看護師

ラウンド日時

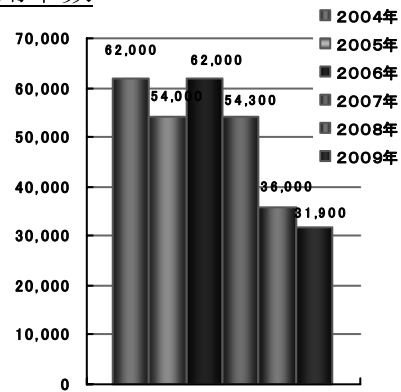
- ・ 毎週金曜日（もしくは木曜日）
- ・ 15 時～ラウンド検討  
ラウンド実施対象者の選定
- ・ 16 時～ラウンド実施  
ラウンド実施対象部署へ  
情報収集  
カルテ記載
- ・ 17 時～ラウンドまとめ  
報告書の作成

ラウンド報告

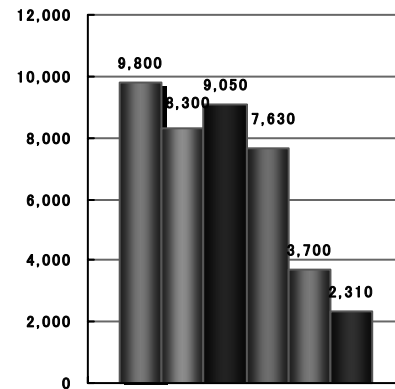
- ・ 各部署へ報告書の提出
- ・ 毎月ワーキンググループ、院内感染対策委員会での報告

◆ 抗菌薬について

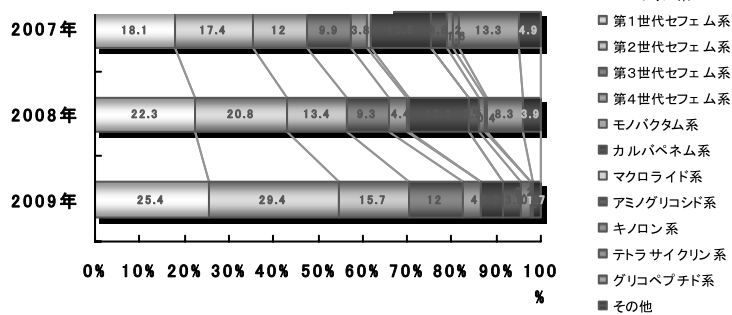
抗菌薬の使用本数



抗菌薬の使用金額



系統別抗菌薬の使用率



抗菌薬の使用本数、使用金額は減少してきている。

また、系統別抗菌薬の使用率の推移より、広域抗菌薬の使用から狭域抗菌薬の使用へと増加がみられている。

《業績》

(1) 学会研究会報告(2009.4~2010.3)

番号	整理	演 題	発 表 者	学 会 ・ 研 究 会 名	年 月 日
1		市販ソフトを使用したICTラウンドデータ管理下の試み	川西史子 松本朝美 泉原里絵 中田ひとみ 鎌田史江 畑中雅喜 玉置俊治	第25回日本環境感染学会	2010.2.5-6
2		当院における感染対策病棟ラウンド	泉原里絵 中田ひとみ 鎌田史江 森朝紀文 松本朝美 川西史子 畑中雅喜 玉置俊治	第25回日本環境感染学会	2010.2.5-6